

北星まちづくり推進協議会 会議録 令和7年度第1回

会議概要	
日時	令和7年5月21日(水曜日) 午後6時30分から午後7時45分まで
場所	北星地区センター大ホール
出席者	委員（19名，会長以外は50音順） 中村会長、相澤委員、青塚委員、小笠原委員、小川委員、工藤委員、後藤委員、佐藤委員、白崎委員、竹内（仁）委員、竹内（き）委員、田中委員、西舘委員、坂東委員、三上委員、宮津委員、森委員、渡辺委員、渡邊委員 （欠席者 市場委員、井上委員、土井委員） オブザーバー 地域まると支援員 事務局 地域活動推進課 佐々木次長、平島主幹、神田補佐、高桑主査、小熊主査 防災課 紺田課長、伊藤主幹、大西主査 北星公民館 五十嵐館長
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 北星まちづくり推進プログラム
	資料2 令和7年度北星地域活動計画
	資料3 令和7年度北星地域事業カタログ

議事の内容

1 開会

欠席者の報告、人事異動に伴う事務局職員の紹介、北星まちづくり推進協議会新委員の紹介を行った後、配付資料について確認。

中村会長による議事進行。

2 議題

（１）逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト事業（川端・北星地区）について

防災課から、今年度、行政提案事業として地域内の川端・北星地区で実施予定の「逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト」の概要について話があり、実行委員会立ち上げから防災計画・防災マップ作成に至る今後のスケジュールについて説明を受けた。

質疑応答の要旨は以下のとおり。

【委員】

- ・昨年度に行った同事業の成果品である近文地区防災計画・マップの配布先はどのようなになるか。

【事務局】

- ・近文西地区、近文東地区の両市民委員会と印刷費用の負担も含めて相談した結果、近文西地区及び近文東地区市民委員会区域内の町内会加入世帯に配布することになった。その他の方については、市のホームページにも掲載するので閲覧・印刷するなどして活用いただきたい。

（２）令和７年度の北星地域まちづくりについて

昨年度まち協で協議した資料１、資料２について再確認するとともに、資料３に基づき、北星地域の３つの実行委員会である「北星６地区防災事業実行委員会」（三上委員長）、「北星まちづくり地域福祉ネットワーク」（宮津委員長）、「北の散歩道環境保全事業実行委員会」（森委員長）から、今年度の事業の方向性や課題について説明があり、各事業について委員間で意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

（北星６地区防災事業）

- ・防災フェアは親子づれでの参加者が多い。お年寄り目線で体験できるものがあるとよい。
- ・防災フェアの各ブースの順路がわかりにくいなどの課題もあった。案内などの工夫が必要。
- ・担い手として学生を取り込んで、若い世代が興味を引くアイデアをもらうことができればよい。
- ・北星まち協は６つの市民委員会から成っており区域が広いため難しい面もあるが、参加者をもう少し集められるような工夫ができるとよい。
- ・子ども向けのフェアになっている感があるので、大人が興味をもつ内容があってもよいのではないか。
- ・雨天時の課題もあるが、イオン春光店で出来ることを考えて、開催を検討してみるのもよいのではないか。
- ・防災フェアの新しいコンテンツとして、災害派遣医療チーム（DMAT）のスタッフを呼んで協力してもらうといった方法もある。紹介できる場合があるので声かけしてほしい。

（北星まちづくり地域福祉ネットワーク事業）

- ・イベントの参加者は一昨年より増加しており好ましいが、一方で、人集めでよいかという課題もある。内容をさらに工夫していければと思う。

- ・通信については内容、レイアウトとも好評であった。
- ・講演ではいい勉強をさせてもらっており、貴重な学習の場となっている。
- ・イベントでは落語・講演の後、帰宅してしまった方が多かった。高齢者のよろず相談は利用者が少なかったが、福祉に関する困りごとについて、より気軽に話し合える場となれば有効と考える。
- ・福祉においては支える側への配慮も必要。その意味では内容を工夫して、多世代交流を進めることも大事と考える。
- ・介護する年齢になってはじめてケアマネ等の知識の重要性がわかる。通信などで早いうちから若い世代にも目に触れてもらうことは大切である。

（北の散歩道環境保全事業）

- ・実行委員という担い手の立場でも楽しめ、各世代と関われる場となっている。
- ・昨年度、児童センターの子どもたちが、担い手として携わってくれ地域の力となってくれた。子どもたちにとっても学びの場となっている。
- ・町内会への事業の周知法を工夫して、参加者の増加につなげたい。
- ・明成高校の生徒、北都保健福祉専門学校の学生が担い手として活発に動いてくれ、事業を盛り立ててくれた。生徒や学生の教育の場という一面もあると思う。今後も引き続き協力を得て進めていければよい。
- ・冬のイベントに関しては、イオン西店で取り組んでいる事業との連携も検討できると思う。
- ・落ち葉拾いでは教育大学の学生にも協力いただいているが、他の取り組みでも連携できればと思う。
- ・各世代の担い手が増えることが事業充実につながる。様々な方に担い手となってもらえるよう声掛けをしていきたい。

今後、出された意見を各実行委員会での事業構築に役立てることとした。

3 その他

事務局から、以下の事項について説明があった。

- 1、報酬について
- 2、次回の日程について
- 3、実行委員会の開催予定について
- 4、地域のチカラ等について

4 閉会